



## 今年の運動会は上関小学校と合同でした

10月2日に上関小の運動会が開催され、祝島小1年生の蛭子みさきちゃんも参加しました。祝島からは家族の皆さんをはじめ、強力な応援団が駆けつけ、少人数ながらもどこにも負けない大きな声援を送っていました。

みさきちゃんも大ハッスル。徒競走などの個人競技はもちろん、ダンスなどの団体演技も限られた合同練習の中でしっかりと練習を積み、当日は素晴らしい演技を見せてくれました。

尚、来年は上関と室津の小学校が統合され、新しい校舎に移るため、上関小も、このグラウンドでの運動会は今回が最後ということで、地元の方ももちろん、多くの卒業生の皆さんが運動会に参加されていました。



堂々の入場行進



祝島から駆けつけた応援団



全校リレー



団体演技もバッチリ



全員参加の鈴割り



上関小最後の運動会、全員で記念撮影

## 目次

運動会	1
祝島不老長寿マラソン	2
昔なつかし写真展 / ドコモ	3
魚・さかな・肴	4
花*花クイズ	4
会員リレーコラム	5
祝島懐かしの料理	6
祝島大好き人間	7
祝島中・野球部再創設史	8
Let's learn English in Iwaisima!	9
お知らせ&募集 / 編集後記	10



## 第4回祝島不老長寿マラソンを終えて

大会実行委員長・國弘 秀人

8月7日(日)に第4回祝島不老長寿マラソンを開催いたしました。昨年は神舞のためにお休みしましたので、2年ぶりの開催でしたが、たくさんのランナーの皆さんが参加され、祝島の夏を満喫されました。

今大会の参加者数は13kmの部が94名、2kmの部が31名、合計で125名でした。多くは山口県内や広島・福岡などの近県からですが、中には関東や関西方面からの参加者もいらっしゃいました。また、祝島出身者や、その子供たちの参加もあって、島民の熱い声援を受けていました。

大会の運営には祝島の方々や島外からも多くのボラ

ンティアの皆さんが駆けつけてくれました。また、コース沿いに畑を持つ農家の皆さんも、大会前に自主的に道路の草刈をしてくれました。他にもここに書ききれないほど多くの方々の協力によって大会が支えられています。この場をお借りして、大会に関わっていただいた全ての皆さんに感謝いたします。

ランナーの皆さんはもちろん、応援の人たちも、ボランティアの皆さんも、みんなが楽しめるような、そんな大会を目指していきたいと思っています。

尚、参加費収入の5%(19,150円)を祝島ネット21神舞基金に寄付させていただきました。



選手宣誓は善徳寺のヒロ君とサト君の兄弟



島民の声援に応える最年長79歳のランナー



放送係は広島から来てくれたみっちさん  
インタビューを受けているのは2km女子2位の  
海里ちゃん(会員の山本修さんの娘です)



本部給水・給食係の木村裕子さん

大会の様子や記録は下記のホームページでご覧いただけます。  
大会HP <http://www.iwaishima.jp/marathon/>

### <おわび> 「祝島の歴史を探る」は、お休みです。

好評の連載コラム「祝島の歴史を探る」は、著者多忙のため、今回はお休みさせていただきます。楽しみにしていた皆さん、ごめんなさい。

次号より連載を再開いたしますので、ご了承ください。



すみません。  
次は絶対に  
書きますから・・・

えべ



## 「祝島の昔なつかし写真展」を開催しました

國弘 秀人

8月13日～15日の3日間、祝島公民館において、「祝島の昔なつかし写真展」を開催いたしました。3月にマーティンさんと共同でデジタル化した写真の中から、明治後期～昭和50年代までの懐かしい写真50点を選んで展示しました。

会場にはお盆で帰省された皆さんや島のお年寄りもたくさん見に来られました。お年寄りの方々には本当に懐かしかったようで、写真に写っている顔を虫眼鏡で覗き込みながら、一人ひとりの名前を口ずさんでられる方もいらっしゃいました。



虫眼鏡で懐かしい顔を探す人も



会場には50点の写真を展示



若い人には、島の歴史を学ぶ機会になりました



入口の看板は役場の石丸さんが作ってくれました



こちらは前日夜の準備作業風景です。手伝っていただいた会員の皆さんご苦労様でした。

## NTTドコモの祝島基地局が完成

10月にNTTドコモ中国の祝島基地局が完成しました。年末までには運用が開始されるそうです。

アンテナは水源地のそば（西のお墓の上）に設置されています。

今まで祝島ではドコモの携帯電話は電波状況があまりよくありませんでしたが、これでバッチリ入るようになりそうですね。ただし、祝島基地局の方式はFOMAだけですので、同じドコモでもMOVA方式の携帯電話は、残念ながら今までと変わらずです・・・。



NTTドコモ  
祝島基地局のアンテナ

秋の初めにアカハナが釣れました。祝島で釣れるのは1kg位が多いと思います。形はシマアジとヤズの間ということでしょうか。ひらべったいやズという感じです。流し釣りで鯛を狙っているときたまたま釣れたのですが、中学生の頃、父の掛かり釣りに乗って釣った覚えがあります。引きはヤズほど粘り強くは無いようです。

旬は夏ということですが、秋口のも刺身、煮付け、焼いたのも大変いい味でした。冷蔵庫に入れておけば3日4日それほど味が落ちません。

アカハナは、一般にはカンパチと呼ばれているようです。祝島ではなぜアカハナというのでしょうか。ヤズ

よりは明るい色ではありませんが、鼻が赤いというほどではありません。

ギダの仲間にハナアカーというのがありますが、これは赤い線がハナのほうまであります。



アカハナ



刺身



焼き魚



すまし汁



煮付け

<連載> 花\*花クイズ(14)

橋部 好明



前回の花・花クイズの答えは、「ジャガイモの花」でした。

ジャガイモは「ジャガタイモ」の略です。慶長三年オランダ船がジャカ

トラ（現在のジャカルタ）から伝えたといわれています。はじめ観賞用でしたが、明治時代、北アメリカから優良種が入り、作物としての栽培が増しました。1センチ～2センチの果実もなりますが、スーパーなどに並ぶのが塊茎で食用になるのは、皆さんよくご存じ。

ポテトチップス、ポテトサラダと、この芋は食卓で重宝されていますが、振り返りますと、北海道の開拓時代、東北の冷害時、この芋で命長らえた人々は多かったといえます。

終戦後、サツマイモとともに、わたしの空腹を満たしてくれたことに感謝！！

ちなみに、中国産の野生植物の名、馬鈴薯を当てることもあります。

さて、今回の花は？

昔は、鉄道沿線で車窓からもよく見えていたが、最近は全然なし。

祝島に、二カ所、大株があります。



これは何の花？



このコーナーは「祝島ネット21」の会員の皆さんに、自己紹介を兼ねて簡単なコラムを書いていただくコーナーです。第15回目は、元祝島中学校教師で、現在は防府市立・華陽中学校に赴任されている森光泰志先生の登場です。



皆さん初めまして。祝島ネット21の会員の森光泰志と申します。このたび会員のリレーコラムを執筆して下さいとの依頼があり、初めてこの紙面に参加させていただくことになりました。内容は私の祝島での教員生活の思い出ばかりになってしまいましたが…。

私が祝島とかかわり合いをもつようになったのは、今から5年前の平成12年にさかのぼります。当時、大島町立大島中学校（現在は柳井市立）で臨時採用教員として2年間勤務しておりました。その後、柳井市教育委員会から新しい赴任先として私に電話があり、祝島に勤務して欲しい、という打診がありました。正直、祝島がどこにあるのか正確な場所も分からず、この話を受けてもすぐに返事が出来ませんでした。しかし、知らない場所ほど新たな出会いがあるに違いない、と腹を決め、お受けすることにしました。

今でも忘れられないのですが、初めて島に渡る時に乗った「いわい」の揺れたこと。大きな波を船首から受け、ものすごい波しぶきがガラス窓に打ち付けられて、大きく船体が前に沈み込んだことを今でもはっきりと思い出します。一瞬、大丈夫かな？とひやっとしましたが、船長さんの熟練の操船で、無事祝島に上陸することが出来ました。（今では少々の揺れでは何とも感じない。慣れは恐ろしいですね～）

祝島での教員生活は本当に充実し、楽しい日々でした。学校行事が色々と工夫がされており、街の学校や

大規模校にはない素朴さや暖かみがありました。4月のお花見給食、5月の歓迎遠足、6月の野外活動（この時は雨が降って、残念ながら途中で中止になってしまいました・・・でもその埋め合わせとして、後日、日を変えて小学校の校舎を使って肝試しをしました）9月の島民上げての運動会、11月の文化祭と、盛りだくさんでした。また、ピワの袋かけと収穫の実体験、美術では1日かけての絵画大会、技術では流木を集めてのアート作品作り、総合学習ではあらめを与えてアワビやサザエを育てました。そうそう、体育では水泳の授業が海で行われたのも大きなインパクトがありました。他にもあげれば切りがないのですが、今までの私自身が小学校や中学校で受けた授業や、教員という立場で学校に勤務した世界とは相当違った！？世界が広がっていました。

しかし、これほどまでに充実した教員生活を送れたのも、地域の方々の学校教育に対する温かいバックアップと、明るく純真で素直な生徒達に囲まれたこと、そして困った時には丁寧に指導して下さいる先輩の先生方がおられたお陰であったと、いまでも思っています。わずか1年で島を離れなければならなかったときは本当に寂しかったし、1年がこんなに早く過ぎてしまうとは、と切なく感じました。

現在、全校生徒631人という大規模校に勤務していますが、祝島での体験が、その後の教員生活で失ってはならない大切なものを教えてくれたように思います。まだまだ書けばきりがありません。この素晴らしい体験と思い出をくれた祝島に感謝すると共に、また祝島で教鞭をとることができればどんなに幸せか、と思っています。今は忙しくてなかなかできませんが、不老長寿マラソンなどのボランティアなどのお手伝いが出来る時は、ぜひ参加したいと思います。

それではこの辺りで筆をおかせていただきます。



万葉祭の「水戸黄門」では越後屋を熱演

## <連載> 『聞いてみん菜・食べてみん菜』 祝島懐かしの料理(11) ~ 押し寿司 ~

祝島・食べてみ隊

今回は祝島HP『なんでもランキング---祝島の懐かし料理は?』部門堂々の第1位『押し寿司』です。

これは、祝事の時の映えある料理のようですが、祝島育ちでない我々を見たことも食したこともないものでした。そこで、藤本芳子さんに御指南いただいて作り方をまとめていただきそれを元に作ることにしました。祝島で薄赤と緑のでんぶも求めて。ところが、いざ作る段になって押し寿司の型枠がなく、大急ぎで買いに行きました。何年も使っていなかった寿司桶を引っ張り出して、いざ・・・

### <前日の準備>

寿司酢づくり(1升飯用)

<材料>

酢 : 1.8ℓ      いらりこ : 2つかみぐらい  
砂糖 : 2~3kg      だし昆布 : 少々  
塩 : 250g      化学調味料 : 少々

(1)いらりこの頭と腹わたを取り除く。

(2)酢の材料を合わせ、(1)のいらりこ出し昆布をつけておき、柔らかくなったら取り出す。

その場では砂糖や塩は溶けませんが、1日経つときれいに溶けます。



型押し用の魚

鯛や鰯などを造り、塩をふり、生酢にひたひたに漬けておく。



### <当日>

の魚をしぼりあげて寿司酢に漬けなおしておく。

水を控えめにしてお飯を炊く。

かやくを作る・・・かんぴょう、椎茸を水に戻し、ごぼう、人参などとともに小さく切る。

鍋に出し汁、塩、しょうゆ、みりん、砂糖を入れ、材料を入れて汁気がなくなるまで煮る。



ご飯を寿司桶に移し、熱いうちに寿司酢350~400ccを入れ、うちわなどで風を送りながら手早く切るように混ぜる。

酢は分量を少し残す程度に入れ、味をみながら加え、同時にかやくを混ぜる。



型枠の内側に寿司酢をよく塗り、のご飯を詰め、真ん中に魚を乗せ、よく押しをして、型を抜く。



桜でんぶと緑のでんぶを飾る。

作っている間、両親の若かりし頃(たぶん60~70年前)の押し寿司のことが話題になり、祝事の時に、扇面の型の押し寿司を5つ(下に4つを輪にして上に1つ乗せる)お皿に盛って配ったのだと聞きました。扇形の片方には魚を、もう片方に山椒の葉が飾ってあったそうです。今はどうなのでしょう?



父は魚が好きで、お寿司よりもその上の魚をまず食べていたなと、母はその魚が好きじゃなくてはずして食べていたと、どちらもお行儀の悪い昔話に花が咲きました。今回もまた祝島の料理が我が家の大イベントとなりました。



それにしても見たこともない料理を作るのは大変! わからないところは母に聞きながら作るのですが、「これでいい?」と見せると「そうじゃない」の大連発! 二日がかりの料理に大騒動! これはやっぱり祝事などたまに作る御馳走だというのが作った後の感想です。

残った寿司酢は、とっておくと酢のものなどにも使えてとても便利です。



シリーズ第6弾は、長崎県佐世保市に在住の北川暢子さんの登場です！ はるばる九州から1年間に3回も祝島を訪ねて来てくれました。二児の母でありながら、真冬に水着で撮影会したり、大学院を受験したりと、大胆な行動力と旺盛なチャレンジ精神は、理屈抜きですばらしいです。夏に来られた時には、マラソン参加者への写真発送の手伝いもやっていただきました。来年はマラソン大会当日のボランティアに来てくれる予定だとか。

私が初めて「祝島」を訪れたのは、昨年の10月31日、「万葉祭」の日でした。話に聞いていた「祝島」のホームページに、中学校休校前の最後の文化祭なる「万葉祭」の記事を見つけ、今行かなければ二度とこのチャンスはないかも・・・とい



う思いで、早朝4時半に家を出、乗るべき新幹線が実は特別運転でその日は出ていなかったりして、やむを得ず次の新幹線に乗り、田布施から「どうしても船に間に合いたい」とびゅんびゅん飛ばしてもらって、ぎりぎりセーフでの乗船でした。今思えば、すごいパッションだと感じます。どうしても祝島の万葉祭に間に合いたかったのです。それほど、祝島にあこがれていました。多分、言葉ではうまく表現できませんが、そこにある何かが私を呼んでいたのかもしれませんが。私は直感で生きる人間です。そして、私の直感は、ほとんどといってよいほどはずれたことはありません。自分の心が欲するままに動き、実際たくさんの出会いと原動力を得ました。祝島でもしかりです。



今年の2月、平さんの棚田を訪ねた

祝島に次に訪れたのが今年の2月でした。「民宿くにお世話になり、同じ干支生まれのイケメンK.H氏とも知り合いになりました。祝島の自然を満喫しました。泳げなかったのがちょっと残念でしたが（そもそも、足のつかないところでは泳げないのですが）大きな声では言えませんが、泳ぐ恰好だけはできたことが最高の思い出です。変と思われるかもしれませんが、「一生に一度はビキニを着て写真を撮りたい！」という女心をここで実現できたら・・・と思ったのです。今では、「これからがビキニの世代！」と思っ



念願だった祝島での水着撮影会

ています。 (人間、歳をとると、何にでも度胸がついてきますからね！)

夏休みにも祝島におじゃましました。実は、「祝島マラソン」のお手伝いをしたかったのですが、現職の中学校教員であったため、どうしても都合をつけることができませんでした。それで、遅ればせながら何かできることがあればと伺ったのですが、結局、やっぱり癒されに来ていたんだなあ・・・と感じました。祝島では、時間はゆっくりと流れるのです。穏やかに・・・。「いるだけで癒される島」それが「祝島」です。

来年は、現役大学院生になるので、精一杯「祝島マラソン」のお手伝いをさせていただきたいと思います。佐世保からも美人ランナーを連れて行きますね！

それでは、祝島のみなさま、今後ともよろしく願います。

## < 特別寄稿 > 祝島中・野球部再創設史 『君の瞳は100万ボルト』

～ 第6話(最終回) 祝中野球部のプライド ～

元祝島中学校教員・松村文彦

「きつい。えらい。しんどい。今の俺だったら、したくない。」

祝中野球部の2004年度シーズンオフの練習は、顧問から見てもこんな印象の地獄絵図だった。何をしたか、とにかく走った。どこを走ったか、宮戸八幡宮の境内に上がるまでの階段を。何本、走ったか、数え切れないほど……。

この年のオフはとにかく下半身強化を念頭に置いたメニューを用意した。部員の下半身が細いという理由もある。下半身を強化しておくとなんにも応用が効くという理由もある。しかし、私がそうした本当の理由は、下半身強化練習は精神的にしんどいから、なのだ。今まで何もかも1人でやってきた練習は、はっきり言って、甘えがあった。それは、確かに仕方のないことだ。けれども、1人だから、とか、自分に厳しく出来なかったから、といった理由では、島から出て通用するわけがない。祝島中野球部として残された時間は限られている。その、残された時間の使い方は自分の意識次第なのだ。私は迷わず下半身強化に割いた。

タイムは1本1本計上し記録した。客観的なものさしを用いることによって、甘えをなくし自己の進歩を知るためだ。最初の頃、宮戸八幡宮の階段は阿鼻叫喚図だった。苦しいのだ、明らかに。しんどいのだ、見るからに。足が動かないのだ、意に反して。しかも、階段ダッシュの相手は過去の自分の記録。一瞬たりとも力を抜けない。コンマ何秒かの差が、タイムという現実となって表れてくる。



八幡宮付近には嗚咽が広がり、通る人、通る人が、心配そうに足を止める。中には私のことを鬼と思った人もいらしたかもしれない。全く否定はしない。私は"鬼"以外の何者でもなかった。口調こそ柔らかいが、与えて

この階段をどれだけ走ったことが……

いる課題は鬼そのものだった。部員に極悪非情と思われても一向に構わなかった。いや、むしろ、それを望んでいた。いくら、思われてもいい。いくら、嫌われてもいい。そのように思われながらも、メニューが消化されていくのだったら、どのように思われても良かった。

部員の足が動かなくなったときもあった。過呼吸で息もままならないときもあった。足が震えて階段からずり落ちるときもあった。しかし、私は練習に全く情を介入させなかった。ただ、淡々とタイムを計り、疲労でインターバルが間に合わないときは、冷酷にも練習中止を宣言した。当時の彼には自己を振るい出す自立心が足りていなかったからだ。

そんな指導方針の中、彼は弱音を一切吐かず、最後の3月まで階段を駆け上がった。やめたくなるときもあっただろう、顧問を憎んだときもあっただろう。自分を情けなく感じたこともあっただろう。それでも、彼は階段を駆け上がり続けた。嗚咽を吐いたり、足が疲労で止まったりすることは、裏を返せばそのまま自分を追い詰めている証拠でもある。彼はそれほどまでに成長したのだ。

彼は立派だ。正直、尊敬した。ここまでやり遂げる意思に敬意を感じた。自分が同じ環境だったらここまでやり遂げられただろうか。いや、弱音を吐いていたかもしれない。それほど素晴らしい走りっぷりだった。下半身がたくましくなったのは勿論のこと、スポーツ、強いては人生を歩んでいく上で大切な何かを感じ取っていた。

約2年間の短い期間ではあったが、祝島中学校野球部は復活した。1名という少ない部員ではあったが、彼の存在はしっかりと祝中史に刻み込まれた。そして、何よりも、彼自身が2年間、祝島で野球をやったということがとてつもなく大きな意味を持つ。自分に甘え、自分に勝ったという思い出は、はかなくも濃い青春の1ページとなって彼の魂に焼きついたことであろう。

その100万ボルトの瞳と共に……。

< 完 >



Part1. Dennis's first visit to Iwaishima (14)

We used to have a big festival in autumn some years ago.  
Many people gathered together and enjoyed watching the portable shrines being carried by men.

(何年か昔は、秋に大けえ祭りがあったんじゃが。人がいっぱい集まって、みこしを担ぐのを見て楽しんだりせたんじゃがねえ。)

The festival celebrates a good harvest, doesn't it ?

(そのお祭りって、豊作を祝うものなんでしょ?)

The vegetables, fruits and rice in Iwaishima are very high quality.

(祝島の野菜や果物や米は品質がいいんでしょう!)

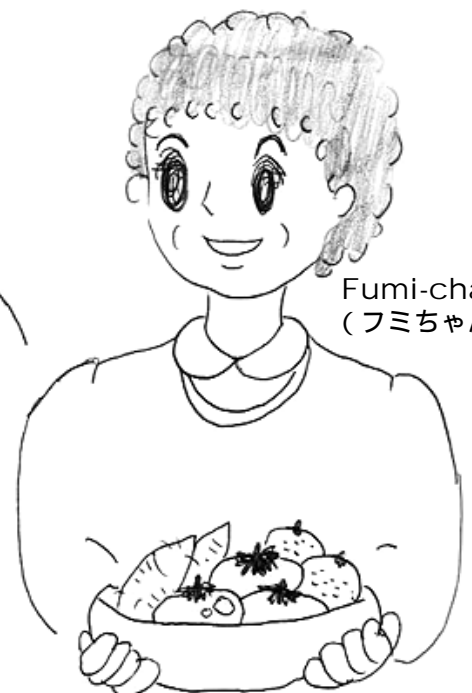
That's true.  
(はあはい。)



Hashibe-san  
(橋部さん)



Dennis  
(デニス)



Fumi-chan  
(フミちゃん)

## お知らせ & 募集

### 会報の原稿&アイデア募集!

会報「いわいしま通信」は、これまで少しずつ内容を拡充させてきましたが、さらに面白い会報、そして多くの  
人に参加してもらえる会報をめざして、原稿やアイデアを募集したいと思います。

原稿は連載でなくても単発のもので結構です。(もちろん連載も大歓迎ですよ!)

内容は祝島に関係ある内容ならなんでもOKです。(採用されるかどうかは別ですが・・・。(^^;))

例えば、

祝島にゆかりの場所に旅行したときの旅行記

島外から祝島に旅したときの紀行文・感想文

祝島ゆかりの人物伝(役行者、徐福、平景清、松田正平、・・・)

短歌・俳句・川柳

クロスワードパズル

漫画・小説・詩

調査・研究発表

写真・イラスト・絵画・版画

等々・・・。



原稿はEメールか郵送でお願いします。

Eメールの場合は [kunihiro@iwaishima.jp](mailto:kunihiro@iwaishima.jp) まで、郵送の場合は  
事務局宛に送ってください。会員以外の方の投稿もOKです。

こんな内容載せて欲しいとか、こういうコーナーを作って欲しい、  
というアイデアも大募集しています。

## 編集後記

9月後半から10月前半にかけて、私は3週連続で運動会に参加しました。1つめは防府市に住む甥の通う大道小学校の運動会、2つめは室津小学校、3つめは表紙にも掲載した上関小学校の運動会です。室津小・上関小は4月からパソコンを教えに行くようになったおかげで参加できました。上関小の運動会には、祝島小からみさきちゃんが参加しました。たった1人での参加ですが、まったく臆することなく、一生懸命に競技や演技に取り組んでいました。島からの応援団も、祝島の運動会のように賑わしく、一番目立ってました。島の女性軍は大人も子供も頼もしいです。ただ、やっぱり祝島で運動会がなかったのは、ちょっとさびしいですね。学校主催だと人数的に大変そうなので、自治会主催で開催してもいいのではないかなと思っています。そうなれば、祝島ネット21としても、大いに協力したいと思います。

さて、今回の会報も時間との闘い。締め切りギリギリによやく完成しました。どうしてこうギリギリにならないと体と頭が動かないのでしょうか。どうにかしたいけど、どうにもならない・・・(～;) )

次回の会報は来年1月発行の予定です。お楽しみに。

(編集長：國弘秀人)

事務局では会員の皆さんからの投稿をお待ちしております。ご意見・ご感想・  
身近な情報など、お気軽に投稿してください。  
祝島ネット21では随時会員を募集しています。



モイカのシーズンです

《発行》 祝島ネット21事務局

〒742-1401 山口県熊毛郡上関町祝島

ホームページ <http://www.iwaishima.jp/inet21/>